



年の初めに

校長 吉井 宣明

新年あけましておめでとうございます。令和6年は1月1日から能登半島で最大震度7の大きな地震がありました。被害も大きく、一週間たった今でも避難所生活をされている方の苦労は、いかばかりかとお察し申し上げます。天災は、正月を避けてはくれず、改めていつ起こるか分からないものという思いを強めました。被災者の皆様が早く日常生活を取り戻せることを心より願います。この地震では、発生当日の津波警報を知らせるテレビのアナウンスも話題になりました。強い口調で「東日本大震災を思い出してください。」と繰り返し、緊迫感が伝わりました。波が激しくなる映像を見て、私は当時のことをありありと思い出し、テレビに釘付けになりました。現地の人たちは津波を避けて無事に逃げられているだろうか、原子力発電所は今のところ大丈夫と言っているが、このままなんともないであろうか。東日本大震災では、横浜市でも震度5を観測しました。その日は電車が動かず、電話がつかりにくくなり、帰宅困難者が多く出ました。原子力発電所の事故による放射線漏れが起こり、しばらく学校でも放射線の計測が行われていました。2011年3月11日に起きた東日本大震災は、今から13年前になります。6年生が2011年4月以降生まれになるので、今の小学生は誰も体験していないことになります。体験していない今の小学生や当時幼かった今の中学生にとって、東日本大震災は、過去に起こった出来事の一つになっているかもしれません。あの時のことを思い出せる世代が、しっかり次の世代に伝えていかなければなりません。去年は、関東大震災から100年という節目の年で注目されましたが、引き続き防災について、自分の命を守る大切な教育として取り組んでいきたいです。

さて新しい年が始まり、子どもたちの元気な笑顔が戻ってまいりました。この笑顔が私たち教育者の喜びであり、励みとなるものです。去年は150周年記念事業を始め、運動会などの学校行事やその他の教育活動や様々な課題に保護者や地域の皆様のご理解ご協力を得て、共に取り組み、乗り越えてまいりました。心より感謝いたします。今年も子どもたちの成長に寄り添いながら、一緒に学びの場を築いてまいりましょう。

新しい年になると、多くの方が新年の抱負や目標を掲げることでしょう。日吉台小学校は、今年も「みずから生きる とともに生きる 日吉台の子」という教育目標の元、子どもたちが主体的に協働して成長していけるよう、一層の努力で取り組んでまいります。今、技術の進歩により生成AIが作詞作曲、小説などの著作、絵画の制作など芸術の分野も可能性を広げ、同時に著作権の問題にもなっています。教育現場では、読書感想文などの宿題にAIを活用する是非が話題になることもあります。そのような時代を迎え、知識を蓄えるだけでなく、自分の考えをもち、深め、それを伝え合い、他の人と協力して課題に立ち向かうことの重要性がますます高まっていると感じています。今年「辰年」。龍のように力強く、大いなる可能性と夢を秘めた年です。私たちも、子どもたちの可能性と夢を信じてまいります。

最後になりますが、皆様のご多幸とご健康を心よりお祈り申し上げます。本年も、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。どうぞ良い一年となりますように。新年、明るい未来への一歩を共に踏み出しましょう。

